



★ 教員になった君たちに期待すること

(1) 卑怯者をつくるな!

過日、ネットの誹謗中傷によって自殺した人がいました。大変悲しいことです。匿名で誹謗中傷するのは、極めて卑怯な行為です。別の被害者が法的措置を取ると言ったら、続々と自分の書いた誹謗中傷を消したそうです。日本人は、いつからこんな卑怯な人間になってしまったのでしょうか。昔の話ですが、武士の戦いは自分の名前を名乗ることから始まりました。最近では「自粛警察」という言葉が流行りましたが、警察に失礼です。警察官は、必ず名乗るものだからです。匿名なら警察でも何でもありません。誹謗中傷に負けるな! そして、「学校教育で卑怯な輩を生み出してはいけません!」

(2) 何が重要なか判断できる人間になろう!

コロナのために世界中が大変な状況になりました。そんな中、教師という立場だったら何を考えますか? 教師なら当然生徒のことを第一に考えるでしょう。例えば、「生徒は、心身ともに健康だろうか?」「生徒の学力をどう保障しようか?」などです。物事には、必ずいろいろな要素が含まれています。その中から今何が重要なかを考え、判断し、そこを重点的に解決していく。そういう実践的な行動力のある先生になってほしいです。

(3) 人権教育を重視しよう!

昨今、黒人差別反対デモが世界中に広がっていることが、マスコミを賑わしています。人種問題に限らず「差別をしない・認めない、誰もが平等である」ということを教育するのが人権教育です。どの自治体も人権尊重を第1目標に掲げています。それくらい重要なことなのです。しかし残念ながら、東京都人権啓発センターによれば、「女性、子供、高齢者、障害者、同和問題、アイヌの人々、外国人、HIV感染者・ハンセン病患者等、犯罪被害者やその家族、インターネットによる人権侵害、北朝鮮による拉致問題、災害に伴う人権問題、ハラスメント、性同一性障害者、性的志向、路上生活者」などの人権侵害(差別)が言われています。子供差別には児童虐待があります。災害に伴う人権問題にはコロナ治療に当たっている医療従事者やその家族に対する差別があります。これらをなくし、あるいはなくせる人材の育成を教員志望の皆さんには大いに期待されているのです。

(4) コロナ対応を通して世界のリーダーから学ぼう!

ニュージーランドのアーダーン首相、台湾の蔡英文総統、ドイツのメルケル首相、アイスランドのヤコブスドットティル首相、ノルウェーのソールバルグ首相。全員がコロナ対応で成果を上げた人です。厳しい外出制限を行いつつも、事業者がつぶれないように高額の支援金を出し、しかも記者会見では記者からの質問がなくなるまで何時間でも質問に答えたそうです。また、毎日自分の言葉で国民に対して、一緒にコロナと闘おうと激励をしたとのこと。実に素晴らしいと思います。これらのリーダーに共通している点は、国民から信頼されているということです。「あのリーダーの言うことだから間違いない」と思っている人が大変多かったのです。教育でも同じです。数学や理科の指導法も大切ですが、それよりもまず生徒から信頼されることが大前提です。信頼のないところに教育は、成立しません。とはいえ、信頼を築くのは簡単ではありません。時間と手間がかかります。「回覧ノート」で普段見えない生徒のよさに気付いたり、個人面談を通して対話したり。いろいろな工夫を重ねた結果として信頼関係が出来上がるのです。経験から言えば、正直大変です。でも、その先には、教職でしか味わえない充実感が待っています。私も、もし生まれ変わっても、迷うことなく教員になるでしょう。それくらい教職とは魅力的なものです。期待してください。

(5) 統計の考え(数学的な見方・考え方の一つ)は重要!(数学教師を目指す人へ)

TVのニュースなどでグラフを用いた統計的データを根拠とする説明がよく用いられます。相手を説得する際、統計的データを根拠にすると説得しやすいです。一方、説明される側としては、数学的な見方・考え方の一つである「統計の考え」を知っていないと騙されてしまうことが多いのです。世の中には、言いたいことを先に用意しておいて、後からそれに見合うデータを用意して根拠とする人がいます。是非とも気を付けたいものです。数学で扱う「統計」では、母集団がある程度大きくないと信頼度は低いのです。また、サンプルデータは、無作為抽出でないといけません。そういう基礎基本を教えるのが数学教師です。よく学生に話す例ですが、「人が亡くなった場所に関する統計」を取ったら、「車がたくさん通る道路の上よりも病院のベッドの上で亡くなった人の方が圧倒的に多い」という結果が出ました。この結果から、「道路の上よりも病院のベッドの上の方が危険」という結論を出したら、皆さんは笑うでしょう。でも、これに類した怪しい論理は、日常的に行われているのです。要注意です。

★ 2019年度の教員採用試験結果

昨年教職課程センターの指導を受けた学生は25人で、そのうちの20人(公立15人、私立5人)が4月から専任教員として教壇に立っています。専任合格率は80%。これは極めて高い数値です。如何に学生諸君が頑張ったかということです。

★ 1次試験受験後の復元答案について

毎年お願いしていますが、**今年のお受験生にお願いします。**1次試験の論文と2次試験の面接の復元答案を教職課程センターに提出してください。可否の予想と後輩のためにご協力よろしくお願いします。試験を終えて時間が経つと忘れてしまうので早めにおね。

★ 「個人面接練習・集団討論練習・模擬面接・教採向け模擬授業」に参加する3年生へ

6/22から面接練習等が始まりました。今年は、3年生がナント10人も面接練習に参加しています。実に素晴らしいです! もし可能なら、**1回だけでもいいので、3年生は4年生の練習風景を見てください。**自分との違いに圧倒されると思います。それは当然です。4年生は2月にも練習をしていたのですから。3年生にとって4年生はいい目標です。1年後ここまで固ければ合格できるという見通しもてます。是非、一度見学してください。見学希望者は、教職課程センターまで連絡してください。

《公立学校教員と私立学校教員の違い》

- ★ 公立学校と私立学校の教員は、どう違うのでしょうか。比較してみましょう。国立学校はほとんど新採教員を募集せず、経験者を採用することが多いので省きます。早慶の附属校も国立学校に近いです。
※ 内容は、あくまで私の経験や伝聞によるものです。

【 比較項目 】	【 公立学校 】	【 私立学校 】
設置者	地方自治体 (教育委員会)	理事長 (学校法人)
主たる根拠法令	地方公務員法	私立学校法
採用方式 (試験内容)	教員採用選考で候補者を決定 (筆記試験、論文試験、面接試験 等)	求人票や私学適性検査名簿から募集 (筆記試験、模擬授業、面接試験 等)
初任給	(東京都の例) 2019年4月1日現在 ○小中高とも 約248,700円 ○特別支援学校 約261,700円	学校の経営状況によって異なる。 ○ほぼ公立学校並み。○基本給は公立学校並みだが、各種手当は公立より高い。○公立学校より低い。 など
勤務時間	1日当たり 7時間45分 1週間当たり 38時間45分	学校によって異なる。公立学校教員より長い学校もある。受験する前に調べること。
超過勤務手当	給特法のため、残業手当は全く出ない。	残業手当は出る (はず?) 「公立並」と称して出さない学校あり。
年次有給休暇 (年休)	4月1日採用の場合は、年間20日 1時間単位で取得可 通常、採用2年目からは年間40日	学校によって異なる。 ○年間10日が多いと聞く。 ○時間単位の取得ができない場合がある
昇給	定期昇給: 1年で約5,000円 必ず賞与 (ボーナス) がある。 (6月、12月、3月) 他に成績昇給等がある。(業績評価による)	学校によって異なる。 ○勤務状態や成果によって理事長 (会) が決めることが多いと聞く。 ○経営状態によっては、賞与に影響がある。
昇進	(東京都の例) 昇任選考あり (論文・面接) ○主任教諭 (30歳以上) ○4級職: 主幹教諭・指導教諭 (34歳以上) ○指導主事 (主任教諭経験2年以上) ○副校長 (主幹教諭経験39歳以上) ○校長 (59歳未満)	学校によって異なる。一定年数経験した後、校長から命じられることが多い。 ○学年主任、分掌主任、生徒募集担当 ○副校長・教頭 (ごく一部の教員) ○校長は、公立学校の退職校長が来ることがある。
教員研修	○初任者研修 (1年目義務) ○中堅教諭等資質向上研修 (10年目義務) ○教育委員会主催の研修 (昇任時義務) ○教科等の研修・研究会 (任意) など	○新規採用教員研修 (1年目義務) ○私立学校協会等が主催する研修 (任意) ○教科等の研究会 (任意) など 義務研修は少ない。
異動	(東京都の例) 公募による異動制度もあり。 ○新採1校目は4年~5年で必異動 ○2校目以降は6年で必異動	学校によって異なる。 異動せず定年まで勤務することが多い。 大学附属校は、附属校間での異動あり。
教員間の様子	毎年異動があるので、派閥は少ない。	異動が少ないので、派閥がきやすい。
中学校・高校間の連携	中高一貫教育校以外は、比較的薄い。	中高一貫教育校が多い。
進学指導・進学補習	学校によるが、増加の傾向。	学校によるが、都内は概ね進学校化傾向。
その他	非違行為 (服務違反) 等がなければ、定年まで勤務できる。	経済状態や学校の事情によって雇止め (雇用停止) されることがある。

★ このように、公立・私立それぞれによさや特徴があります。要は、自分との相性です。生徒として入学するのではなく教員として働くわけですから、「生徒の様子」「教員の様子」「管理職の様子」(私立の場合は更に「経営状態」)が重要です。具体的には、生徒がヤンチャなのかまじめなのか、教員は仲よく、互いに高め合おうとしているのか、校長や副校長の学校経営は生徒や教員を大切にしているか、不況の時にリストラされる恐れはないかなどです。実際に学校を見学して、よく見てきましょう。

でも、受けるチャンスがあるので、併願でもいので、公立学校教員にチャレンジしてみませんか! 全力で支援します。また、私立一本の人は、私学適性検査を受けておくことをお勧めします。3年生から受験できます。試験日は8月30日(日)で試験は筆記試験(専門科目と教職教養)だけ。願書切は7/1(水)です。

